

令和8年度 夏季研修 E

「子どもの発達に遊びが果たす役割と具体的支援方法」

令和8年7月24日（金）、関西発達臨床研究所の高橋浩所長より、実践活動をもとに、発達支援が必要な子どもの遊びや遊び方の特徴、遊びの展開や課題となるポイントなど、遊びの場面で見られる様子や状況を紹介しながら講義をしていただきました。高橋所長のユーモアあふれる語り口で、終始和やかな雰囲気の中、笑いあり、学びもありで、時間があっという間に感じられる充実した研修でした。

この研修は校内外合わせて約122名の先生方が受講され、大変好評でした。

●遊びが育てる「心」と「学び」

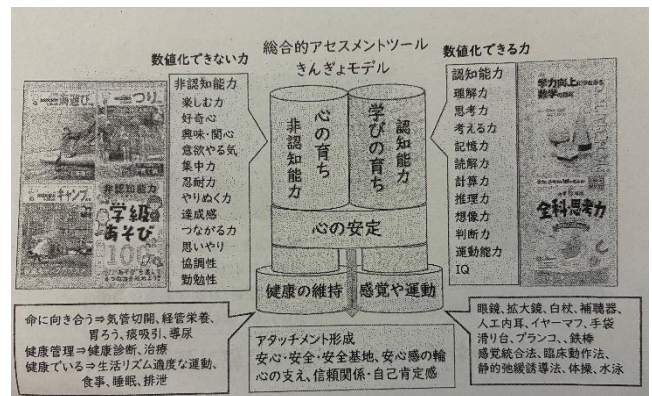
研修では、『きんぎょモデル』をもとに、子どもたちが「やりたい!」「面白そう!」「もう一回!」と思える遊びこそ、

- ・考える力
- ・操作する力
- ・表現する力
- ・人との関わり



を自然に育てると説明されていました。「心」と「学び」は切り離せるものではなく、互いに影響しながら成長していきます。そして、遊びの中で安心感や満足感、自己肯定感が育まれ、「非認知能力」「認知能力」の向上、さらには「心の安定」につながることを学びました。

基本となる発達観<きんぎょモデル>



●支援方法の具体的なポイント

①安心できる環境をつくる

- ・静かで安全な空間づくりを心掛ける。
- ・一緒に遊び、応援し、温かく見守る。(×一人で遊んでいるから関わらなくていい ○できれば一緒に遊び、そばで見守る。離れていても声をかける。)・・・関心をもって見守っていることを伝える。

②リスペクトと尊厳が信頼関係をつくる

- ・子どもを「人格をもつ一人の人間」として尊重することが大切。
- ・尊厳を尊重することで自己肯定感が高まり、非認知能力が高まる。
- ・教師や親は支配的な指導になりがちなので意識する。

③「自分を育てる力」を育てるために

- ・子どもには「自分を育てる力」が備わっているということを支援者が理解する。
- ・遊びの中で「考える」「試す」「工夫する」経験が、非認知能力につながる。
- ・子どもが自分で選び、自分で決める経験を大切にする。

④必要な時の手助けが自発性を育てる

- ・達成感を味わうことで、自信や意欲が育つ。
- ・必要最低限の手助けに留める・・・手助けが必要なときは求めてくる。
- ・甘えとあまやかしは別。求められていないタイミングで指導したり手伝ったりする必要はない。

●これからの実践に向けて

今回の研修を通して、遊びは、子どもが未来を生きるための力を育む大切な時間であることを学ぶとともに、遊びの支援は、本校で実践しているキャリア教育の視点としても大切だと感じました。つい支援したくなる場面でも、子どもを信じて見守ることで、自分でやりきる力が育ちます。これからも子ども達が「遊びの中で育ち、自分らしく輝ける」ように、子ども達が安心して自分らしくいられる環境をつくり、日々の支援を大切にしていきたいと思います!!